

岐阜の博物館

編集兼発行

〒483 羽島郡川島町
エーザイ工園
内藤記念くすり博物館 内
岐阜県博物館協会
TEL (05 8689) 3111
内線 540
振替 名古屋 70106



博物館が一部の学者や研究者のためにあるのではなく、一般大衆のためにあることは当然としても、まだまだ日本では、市民の日常生活と密着した博物館は数少ないのが現実である。

博物館はみんなのもの、一度ならず二度・三度と必要に応じて何度でも訪れるもの……と、どんなに博物館側がわめいてみても、常設展示室を公開しているだけでは、少しも市民のあいだに根をおろすことはできるはずがない。博物館の側自身が、自らの機能を十分に発揮するためにも、そして積極的に大衆の日常生活に密着していくためには、その一方策として「友の会活動」に、どれだけ情熱的に取り組んでいるかこそが、博物館評価の大きな窓として注目される。

「みんなく」は、開館と同時に、スケールの



大きな友の会づくりを展開している。平塚市博物館も、開館前から、友の会づくりはもとより、教育普及事業を前面に出し、これでもか、これでもかと、目をみはるばかりの努力、また協会下の瑞浪市化石博物館の充実した友の会活動……と、楽しみながら自分の好きなことを自由に勉強できる場づくり、これこそ博物館ならではの仕事である。

博物館の友の会活動の体験の中から、生物学に化石に考古に、歴史にと開眼し、現在それぞれの分野で立派な学者になっ

て活躍されている人の例は数多い。勿論、博物館の友の会活動の目的は、何も学者の卵づくりや専門家を養成することにあるのではないが、過去のそうした数々の事例は、結果論として、博物館でなくてはなし得ない尊い機能の一面を物語っているし、知的生活術がクローズアップされてきた今日、博物館の最大の役割ともいえよう。死せる建物……と蔭口をたたかれる前に、博物館側自体が、友の会活動をはじめ、諸々雑多な教育普及事業を、どう企画しどう実践するか……こそが問われている。(K.H.)

名和昆虫博物館

▽500 岐阜市大宮町2-18 (岐阜公園内)

TEL 0582-63-0038

友の会へぜひどうぞ！

今更館園紹介で扱うまでもありません。それにしても、平日だというのに、バス4~5台、幼稚園児の団体見学で賑わっており、さすがは幼児の自然教育でも専門家、そのうえ落語の研究家でもあり話術は天下一品、これに昆虫学の本職としての専門性が背後からにじみ出るといった、まさしく博物館人以上の博物館人……こと名和秀雄館長の魅力……威力、あの博物館にはあの人がいるから……行ってみよう話を聞きに行こう。博物館職員なら、そこまでのタレント性とスペシャリスト面を持たねばならないはず、名和館長こそは日本では数少ない、かけがえのないウルトラ博物館人なのです。

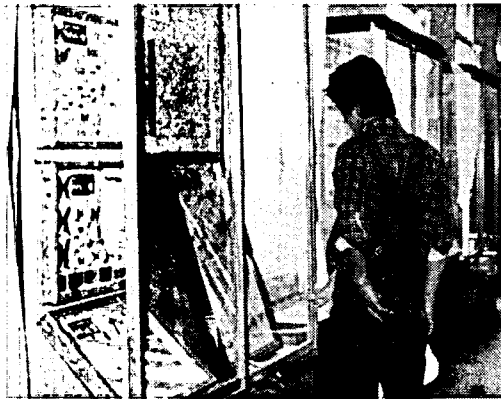
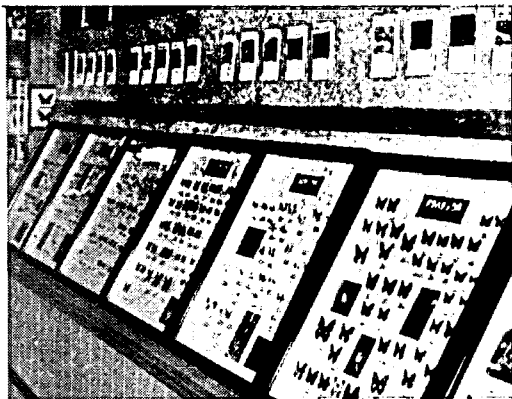
「自然とは、記録映画や茶の間のTVに映し出される映像そのものであっていいはずがない。知識として自然を学ぶことは、それはそれで有意義なことでしょう。しかし、子どもたち自身が、自然のふとところに飛び込み、自然を友とする体験に優るものはないはず。自然をより深い

体験知識として子どもたちの胸にうえつけていきたい。」というのが名和館長の口ぐせ、子どもから大人までの万人の学校として、名和昆虫博物館では、今友の会活動にも重点がおかれている。

親子で参加できる「秋神温泉自然観察の旅」は、夏期の催しもの、御岳山麓の豊かな自然の中で、専門の先生方と一緒に、虫を追い、花を観察し、大自然の中で弁当を食べ、とてもすばらしい野外活動の旅です。この他、秋の虫を聞く会など、四季折々の野外観察会、名付け指導会・研究発表会等の行事があります。こうした博物館が主催する教育普及事業の充実こそは、親子まるごとでの博物館支援者・後援者、そして、よりよき博物館の理解者を生むことにもなります。名和館長の学識と人を引き込む魅力的な話術、そして真実をつくほんものの自然教育者としての顔——それらとこうした事業とがマッチして、気軽に博物館へやってくる主婦や大学生のボランティアまで生んでいるのです。

会員希望者はどんどん申し込みを。小学生以上、一般まで会員対象、会費年間500円、入会金200円、会員には各行事の連絡、博物館入場無料バスその他の特典があります。

私たちの大切な共有財産としての自然を、いつくしみ育て、そして、その素晴らしさを未来に伝える心は、塾通いやガリ勉タイプの室内子どもの中からは芽ばえてこないのです。友の会に参加して、野に出ましょう！

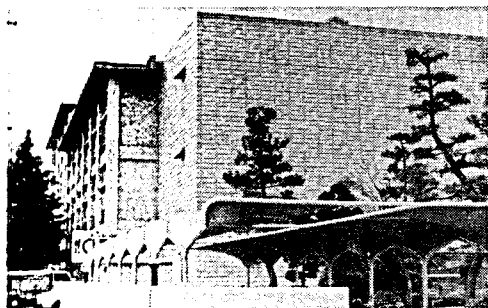


関市郷土資料館

(関市文化会館内)

▽ 501-32 関市桜本町2丁目30

TEL 05752-4-2525

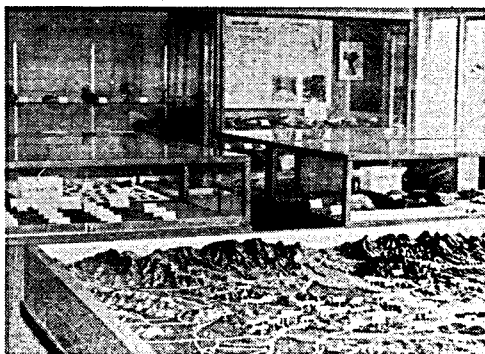


市民文化の拠点がオープン

とにかくすばらしい市民会館ができました。交通の便がよい25,700㎡という広い地籍に、1,200人収容の大ホールをもった市民会館、これと結ばれて会議室、図書館、資料館、個展室、視聴覚室、和室等が設備され、外には300台収容の駐車場、市民広場、野外ステージ、庭園等が設けられ、まさしく関市の新しい顔であり、市民文化の拠点である。

正面玄関ホールは、ガラス張りの明るい文化サロンといった憩いの場となっており、これを中心にはさんで右側に大ホール、左側の建物に郷土資料館が設けられている。これまで旧文化会館の倉庫に眠ったままであった多くの資料が、一般市民へ常時公開されるようになったもので、図書館が同居していることなど、利用する側の市民にとっては好都合、今後県下各市町村にも、こうした郷土資料館及び郷土学習の場が、どんどん整備されていくことが望まれます。

二階に設けられた展示室は三室からなっている。第一室は「考古資料室」で陽得寺古墳群・塚原遺跡、松ヶ洞弥生遺跡、弥勤寺跡などからの出土品が公開され、関市の地勢模型の中に、数々の遺跡所在地が示されている。見るべき貴重な考古資料が豊富である。第二室は刀剣・産



第1室 考古資料室



第3室 民俗資料室

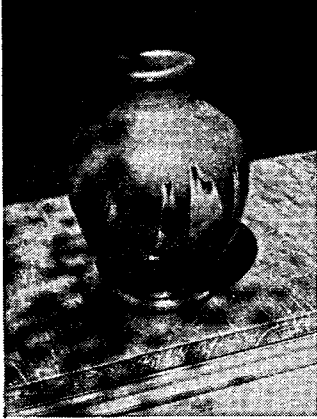
業資料室で、特産の刀剣・刀物関係の資料がみられ、第3室は民俗資料室となっている。一番奥の収蔵庫には、展示されていない資料がドッサリと保管されている。欲をいえば、教室一つ分づつほどの展示室3室ではいかにも狭く、おしまれてならない。

これだけの持てる宝物、収蔵庫の民俗関係の諸資料を、今後どのように市民一般への学習素材に活用していくのか、定期的にどんどん展示替えを行うなど、狭い展示室内での効果的な公開策が望まれる。さらに、「もの」を展示して見せるだけの施設を乗り越えて、具体的な「もの」を通して郷土を知ることができる文化活動の拠点となり、調査研究に、あるいは教育普及活動に、ますます発展されることが期待される。

毎週月曜日と祝祭日の翌日は休館、開館時間は午前9時→午後5時。入館は無料です。新しい郷土資料館のひとつのあり方として、ぜひ一度お訪ね下さい。

歴史をさぐるロマンの旅へ

飛騨民族考古館長 坂本重次郎



この珍しい色調を呈す壺を、思わず瑠璃と称し温存したのが、たしか去年の春でした。今だかつて見たことのないすばらしい珍品とはいえ、説

明書きのすべもなく館内に陳列し、自己満足していました。たまたまNHKの大河ドラマ「黄金の日々」を見ていて、その一シーン「中国人瓦工一観が安土城の青瓦を焼く」のを見て、私は直感的に手中のこの壺に想いをはせました。ドラマの中で作り出された色とはいえ壺と酷似する瓦の青い色は、まるでルリ鳥の羽の色のようで、何なくもその「るり」の語を用いたのです。青瓦と同じように「青い壺」と呼ぶと、壺自体の本来の色調である幅の広い色彩感覚が表現できないのではないだろうかと恐れたからです。瑠璃といえば、通俗的には紺青（こんじょう）色のことで、青瓦を瑠璃瓦といえば共通しますが、いずれにしても単純な動機からでした。しかし、陶磁器を数々扱ったこれまでの体験では、まったくなかったことで、その後もこの瑠璃壺を見るたびに、青（瑠璃）瓦を焼く一観像が想起こされ、不思議と、この瑠璃壺と何か深いつながりがあるにちがいないと思われ、愛着を越えた執着心が湧いてくるのでした。この謎めいた瑠璃壺の発見場所、あるいは壺自体が秘めている特徴の数々、これらの歴史的背景をさぐる必要にかられ、歴史をさぐる旅ならぬ瑠璃壺のロマンの旅をしてみることを思いついたのでした。

この瑠璃壺は、益田郡萩原町桜洞地内で収集しましたが、ここは扇状地形で高台斜面です。中心部分を桜谷が益田川へとそそいでおり、すそへ向かってゆったりと広がる地形は、山紫水明たるにふさわしい展望です。古くは鎌倉時代より和田一族、木曾義仲の将今井四郎兼平の後裔、そして禅昌寺を菩提寺とする三木一族等の土着説が語られているように、その地の山間には、由緒ある豪農家が散在し、静かな平穏なたたずまいの中に、往時の面影を漂わせています。桜谷下流には、萩原町を眼下に一望できる小高い平な山があります。この平山は、一般に桜洞城あるいは冬城（ふゆじろ）と呼ばれ、これは、三木氏六代自綱（よりつな）の時、本城を高山松倉に移し、冬期間この比較的暖かい桜洞を居城としたと伝えられているところです。この城跡に登ると、今では石垣と空堀跡のみみられるだけで、荒涼とした中に戦国軍乱期の三木氏興亡が想起されます。

この地内での発見場所である農家は、聞くところによると500年の歴史を持つみるからに大きな豪農家で、やはりその昔の三木一族の土着説が伝えられていました。瑠璃壺は、今は亡き九代目当主の時に、萩原町内に住んでいたもと御典医と伝えられているある旧家から譲り受けたもので、大正時代としては相当高価な値段であったとのことでした。三木氏との深いかわりあいがあると考えられ、心浮きたつまま早速この御典医の消息・情報を得るために萩原町内にまい戻り旧家を探し訪ねました。しかし、その場所は、見る影もなく改造されており、喜びも束の間で見当を失ったのでした。落胆した私は、その足で何としても糸口をつかもうと、付近一帯の住民に問いかけ歩き続けて、やっと、とある住民からこの御典医にまつわる話を聞きつけたのでした。（続く）

第2回 岐阜県博物館協会主催

学芸技術員講習会 大盛況でした

去る11月18日(土) 19日(日)の2日間、内藤記念くすり博物館大ホールで開催された、第2回学芸技術員講習会には、募集人数を越える107名の多数の方々が受講されました。丸二日間、朝から夕方までビッシリの講座が続く強行スケジュールにもかかわらず、受講者の方々も熱心に聴講され大盛況のうちに無事終了しました。

講習会内容は宮崎惇氏の病氣入院により一部変更され、下記のようなものでした。

第1日目

岐阜県の植物社会 岐阜県博物館学芸員
小野木 三郎
新しい音声スライド展示 三洋電機開発研究所
武田 和忠
飛騨地方における考古学展望
飛騨集古館々長 土田吉左衛門
瑞浪層群の化石 名古屋大学助教授
糸魚川 淳二
昆虫と人間生活とのかかわりあい
名和昆虫博物館々長 名和 秀雄
社会教育における博物館の役割 ~ 新設博物館
をめぐって ~ 岐阜市児童科学館学芸員
丸山 順士
知多路の円空仏 尾張高野山岩屋寺元住職
石田 豪澄

第2日目

仏教概論 元仏教大学教授 石川 良宣
中部山村社会の猿と民俗 日本モンキーセンタ
ー付属博物館 学芸部長 広瀬 鎮
欧米の博物館 内藤記念くすり博物館々長
青木 允夫
自然史博物館の魅力 広瀬 鎮
フィールドワーク 野焼・原始の美
岐阜県陶磁器陳列館々長 古川 庄作



博物館学研究の課題 岐阜県博物館学芸主事
水野 一

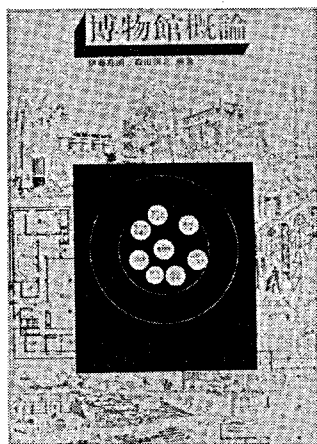
今回の催し物に対して、これほどまでに多数の方々が、全く自主的に参加されたことは、博物館及びその類似施設等の教育普及活動に、多くの方々が多大の期待を寄せられていることの何よりの証拠ではないでしょうか。

岐阜県博物館協会を中軸にしながらも、会員館園が横につながりをもちつつ、一般に公開された各種の学習会・研究会等をどしどし推進していったこそ、博物館は多くの人々の日常生活の中に積極的に入っていきけるはずであるし、利用する側の人々のニーズにも応えることができるはずです。博物館側もボヤボヤしておれないことを痛感させられた二日間でした。



◆ 博物館概論 学苑社発行 4000円

日本の博物館界の最前線で、現在活躍中の学芸員多数の方々が、分担執筆されたもので、実践に裏付けされた博物館学の概論書となっている。



総論編・機

能編・資料編の三部構成で「日本博物館発達史」の中では、本協会のセミナーなど、地域における自主的学習会が評価され大きな期待が寄せられていることが記述されてもいます。博物館人ならだれしもが座右におくべき書物です。

◆ 民博誕生 中央公論新書 440円

国立民族学博物館友の会の機関誌「月刊みんぱく」誌上に連載されている館長対談を新書判にまとめたもので、ホスト梅棹忠夫館長に、小松左京・黒川紀章・中根千枝・岡本太郎・司馬遼太郎・宮本肇太郎その他の各界一流のゲストが存分に語り合い、博物館の何たるかを鋭くついた対談集で、博物館を良くも悪くもするのは、建物でも展示品でも、ましてや予算そのものではなく、何よりも館長を中核とした博物館職員、つまり人であり、その館を支援する人々の頭脳であることが知らされる書物である。その意味からも、博物館の内なる人々にも外なる人々にも、広く読まれるべき教養書であり、ひとり民博の誕生を語っただけの内容ではない。

◆ 博物館学講座 全10巻 雄山閣発行

各巻2,500円 一時払22,500円

日本ではじめての博物館学講座で、本協会顧問の日本モンキーセンター学芸部長広瀬眞氏も

編集委員のひとり、日本国内の博物館学の理論家・実践家を総動員した画期的な講座全集で、昭和53年12月5日 第1回配本は「調査・研究と資料の収集(第5巻)」から、隔月刊行予定。第1巻博物館学総論 2日本と世界の博物館史 3日本の博物館の現状と課題 4博物館と地域社会 5資料の整理と保管 6展示と展示法 7博物館教育と情報普及 8博物館の設置と運営 9参考資料集が本講座の構成内容。またと望めない、しかも世界に誇れる出版物であるだけに、会員諸館園・関係諸機関等がこぞって揃えられることが望まれる。

◆ 博物館研究 復刻版 日博協50周年記念事業
138,000円 一時払118,000円

昭和3年6月に創刊された「博物館研究」は、これまでの日本における博物館学にかかわる唯一の文献で、このたびその創刊号から昭和49年12月号まで、総ページ数9500が集大成復刻されます。500部限定出版で、これまで入手困難だったものだけに期待される日本博物館協会50周年記念事業です。お問合わせは 日本博物館協会 ▼108 東京都中央区日本橋茅場町1-10-1 浦上天珠堂第一ビル まで。

◆ 東海の博物館 ～ 郷土資料のすべて ～

中日新聞社 980円

中日新聞社開発局編集になる東海シリーズ第2弾で、愛知県82館、岐阜県81館、三重県39館、静岡県7館、長野県18館が紹介されている。各館園の特色、資料の内容、それに所在地・電話番号・交通の便・開閉館時間、休日、観覧料などの利用の便が盛り込まれ、東海地方の博物館徹底ガイドブックとなっている。一般の家庭にこそ広めたい書物で、家族旅行・行楽の計画時に、大いに活用され、郷土を知るための施設・機関めぐりが盛んになることが望まれます。

アメリカに見る医学の歴史
19世紀を中心として
内藤記念くすり博物館で開催中

博物館が収蔵している諸資料を相互に交換して特別展を開催しようと、アメリカ・スミソニアン研究所・国立歴史技術博物館との交換展示が実現しました。アメリカ最大級の博物館である歴史技術博物館の収蔵資料が国外で展示されるのは今回がはじめてという画期的な催し物で、



1854年頃、薬局のシンボルとして、着色の水を入れウィンドーに飾られた飾り瓶をはじめ、18～19世紀のメガネの各種、19世紀後半の抜歯鉗子、薬ラベル収納箱、軟膏注入器、生薬標本セット、薬瓶その他の実物資料が展示され、アメリカの19世紀を中心とした医学の歴史が紹介されています。本年5月頃までの長期にわたる特別展で、引き続きヨーロッパとの資料交換展「バスツール展」が計画されています。

★くすり博物館だより 創刊ノ

健康博物館をめざす「くすり博物館」では、博物館諸活動の充実と発展を願って、去年7月から「くすり博物館だより」



を創刊されました。アト紙使用の二色刷りで、現在開催中の特別展示「人類とともに4000年セルフメディケーションと大衆薬」の案内などがされており、この12月には第2号が発刊されます。入手希望者は、〒483岐阜県羽島郡川島町内藤記念くすり博物館TEL 058689-3111内線540まで間合わせを。

郷土資料館 坂祝町にオープン

坂祝町では、旧坂祝中学校々舎を改装し、4教室をぶちぬいて160㎡の資料館を完成、この11月18日から一般に公開されました。江戸時代の火縄銃、明治時代の農器具、養蚕用具、古文書、土石器類など、町の民俗、歴史を今に伝える諸資料を展示。青少年センターが併設されており、町の新しい文化施設として期待されています。

高山市郷土館 新装オープン

新しく買収したものも含めて大小六棟の土蔵が勢揃いし、市内有数の資産家永田家の古い町家の各種土蔵が見られるようになりました。これらは展示室・収蔵庫になり、木造二階建ての管理棟も、古い町家風につくられ、土蔵の白壁・内装も新しくなりました。中庭も整備され、総事業費約1億3千万円、一新された郷土館は本年1月から一般公開へ、これを機会に有料となりますが、建物自体も貴重な建築学上の資料で、ユニークな郷土館として再出発します。

三県協会交歓研究会開催さる

伊勢湾を囲む愛知・三重県の交歓研究会に、本年から岐阜県博物館協会も参加し、12月4日(月)5日(火)の両日、愛知県労働者研修センターで開かれました。第1日目には「荒木集成館の実態と指針『海の博物館の海を守る運動』

「瑞浪市化石博物館の現状」の話題提供があり夜には懇親会、第2日目には現地見学会がもたれました。今後は、こうした隣接県の博物館協会等との交流研究会も盛んになることが期待されます。

吉田幸平氏からのアメリカ便り

岐阜県博物館協会の皆様。

御無沙汰しています。目下米国のオリエンタル大学から招聘されて、ロスアンゼルスで毎日多数の前で、ライフワークである宗教民俗学「山岳信仰に見る日本の精神文化史」を大声を上げてやっております。8月3日の温度24℃と快適です。休みを利用して東部アメリカに来る機会があり、念願のボストン美術館を訪れました。尾形洗淋の絵や足利尊氏の大鎧、それに平治合戦絵巻など、日本にあれば当然国宝ですが、それらがずらりとあり、文化財の流出した明治の終頃の日本を惜しみました。また日本を紹介する意味では役立っています。また有名なハーバード大学・ボストン大学・マサチューセッツ州立工科大学も訪れました。大図書館に驚かされます。岐阜県博物館の5～6倍はあるでしょう。それがひとつの大学の図書館で蔵書も何十万で、ハーバード大学の日本図書は、びっくりするばかり、日本の大学など足元にも及ばない位でした。8日より第2回目の夏期セミナーを講義して帰国します。いずれ機会があれば、ご紹介させていただきます。

型護院門跡大先達合掌

8月の末に協会の皆様あて絵葉書をいただきました。大変遅くなりましたがお伝えします。

韓国の旅 無事終了

本協会をはじめ、岐阜県文化財保護協会・円空顕彰会・東海古城研究の合同企画による韓国への研修の旅は、予定どおり無事終了しました。国際的視野をもった博物館人たるためには、今後もこうした研修の旅を盛り上げたいものです。

私たちの博物館 ～虎溪山の自然～ 発刊さる

多治見青年会議所では、注目すべきすばらしい本を発行されました。標題は、私たちの博物館とありますが、これは、素晴らしい自然と遺跡をもつ郷土の虎溪山を、野外にあるがまゝそっくりこそが市民の博物館であるとみただけのもの、そのための手引きとして 植物のはなし・鳥のはなし・こんちゅうのはなし・地質のはなし・古墳のはなし・永保寺のはなし・修道院のはなし……から構成され、写真・図も多くわかりやすい内容となっている。

博物館の先進諸国では、建物と其中で資料が保存されあるいは展示されているのが博物館ではなく、むしろ野外の自然、野外の景観、そして古い街並みや遺跡群も、現地にあるがまゝそっくり博物館たりうるという理念さえ生まれている今日、こうした日本の若い世代の中で、ふるさとの自然や文化遺産を、現地にあるがまゝまで博物館としてみなし保存していこうという動きがあることは、博物館界にとっても心強いことである。同書の問い合わせは、多治見市新町1丁目18番地 多治見青年会議所 会員開発委員会 TEL(0572)-22-5291へ。

編集後記

★最近博物館に関する出版物が目立つようになりました。日博協創立50周年にして、日本でもようよう博物館の社会的地位が認められ始めたのでしょうか。地域に根づいた地方文化の担い手として、岐博協の役割の尊さと大きさに身がひきまします。

★第2回の学芸技術員講習会は、100名を超える受講者で盛況でしたが、この事実は何を物語っているのでしょうか。質の高い学習内容を求めて、多くの方々が自己教育に燃えておられるのです。人々のこの熱気あふれる学習意欲に、博物館側は常時活動としてどう応えているのでしょうか。(S.O)